

インド首相ウクライナ訪問（575号）

2024年 9月 石館

インドのモディ首相は8月23日ウクライナを訪問ゼレンスキー大統領と会談した。この訪問にはちょっと驚いたが、インドの良く言えば全方位外交、悪く言えば節操のない場当たり外交の表れではないか。



インド首相がウクライナ訪問、平和実現を支援する「用意ある」と...

1992年にインドがウクライナと外交関係を樹立して以来、同国をインドの首相が訪れたのは初めてとなる。

モディ氏がウクライナ訪問に踏み切った背景は定かではないが、インドが外交的に親ロシアに傾いているとの批判をかわす狙いがあるのではないかと見られる。

モディ氏が7月、3期目の首相就任後初めての訪問国としてロシアを選んだ。プーチン大統領との会談で固く抱き合う映像が世界に流れた。



「ロシア寄り」批判かわす狙いも=印首相、23日ウクライナ訪問...

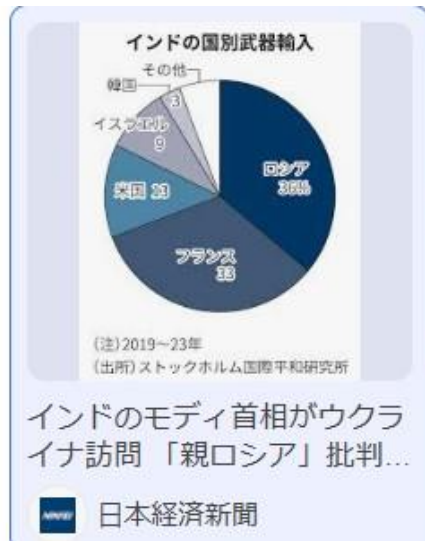
プーチン大統領と固く抱き合う映像。

当時、ロシアがウクライナ首都キーウの小児病院などをミサイルで攻撃した直後だったことから、国際社会から大きな批判を浴びた。

特にゼレンスキー大統領は“世界最大の民主国家の指導者が、血塗られた犯罪者と抱擁する様子を見て非常に失望した”と述べた。米国も強烈な不快感を示した。モディ氏はゼレンスキー氏に平和回復への積極的役割を果たす考えを示したが、互いにテーブルについて話し合えとか、非現実的な話をし、仲介役としての機能に疑問符が付く。

ロシア産の原油の輸入や、武器の調達は今も36%にも達し、ロシアがこのまま攻撃を続けるなら、原油や武器の調達を減らすといった制裁を課すのであれば

ロシアにとって大きな打撃になるであろうが、それ以上にインドにとって安価な原油を輸入できなくなると痛手になるのでそこまでは踏み切れない。



インドは、ロシアの伝統的な友好国で、ウクライナ侵攻を巡って直接的な非難は避けている。7月にロシアを訪問したモディ首相は、プーチン大統領に対して“平和が不可欠で戦場には解決策はない”と呼びかけた。モディ首相は一応何か言わなければと犬の遠吠えのような感じであり、プーチンにしては単に聞き置くといっただけだったであろう。

モディ首相は、ウクライナ訪問に先立って滞在したポーランドでも“対話と外交を支持する”などと外交的な解決を訴えていて、今回のウクライナとの首脳会談で、どの様な考えをウクライナ側に伝えたであろうか



ウクライナで多くの子供たちが犠牲になった慰霊碑をモディ首相は訪れた。その際ゼレンスキー大統領の肩に手をまわし、共に哀悼の意を表しているパフォーマンスを行った。

インドのモディ首相は、今回のウクライナ訪問を通じてロシアに対して、一方的に肩入れしているとのイメージを払しょくしたいとの狙いがあったであろう。

欧米がロシアへの経済制裁を強めるなか、インドはロシア産原油の輸入を大幅に増やしており、むしろ欧米による経済制裁を実効ないものになっている側面もある。

どこの国もそうだが、インドは国益を最優先に必要な国と協力する“全方位外交”を展開しており、国境を巡って対立する中国を念頭に、日本やアメリカ、オーストラリアと共に4か国の枠組み“QUAD”を形成するなど、安全保障や経済の面で欧米諸国とも協調する姿勢を強めている。

インドとしては、ウクライナとの関係を強化する姿勢を示すことで、欧米との良好な関係を維持したいとの思惑が見える。“全方位外交”とは聞こえは良いが、様々な国と安全保障・経済など協定を結んでも、その時の状況次第で協定の意味がなくなる恐れがあり、信頼できる二国間の関係にはつながらない可能性がある。

インドにとってはロシアが孤立を深め、自国と国境紛争を抱える中国に接近するシナリオは避けたい。22年2月からのウクライナ侵攻を巡っても、インドは国連総会のロシア非難決議などを棄権した。

23年9月、インドが議長国を務めた20カ国・地域首脳会議（G20 サミット）でも、ロシアへの批判を抑えて首脳宣言の採択を優先した経緯がある。